

# 箕面ビジターセンターだより

2015年  
4月・5月  
6月号

季刊 箕面ビジターセンターだより 2015年4月  
NPO法人みのお山麓保全委員会・大阪府 発行

## 箕面で見られるスミレ

早春のやわらかな日ざしが林床に届くころ、足元に目を落としてみると、可憐なスミレを見かけることができます。白っぽいものからピンクがかったもの、うすい紫から濃い紫まで・・・よく観察すると、箕面のハイキングコースにも多様な種類があることが分かります。開花期は短いので、すべての種類に出会うためには、4月上旬から下旬の時期に何度か足を運ぶ必要がありそうです。

写真:木山 雅博



タチツボスミレ



スミレ



コスミレ



ヒメスミレ



ニオイタチツボスミレ

スミレを横から見ると右の図のように花の基部が膨らんでいます。この部分を距(きょ)と呼び、スミレの仲間の特徴となっています。この部分が文字を書くときの墨入れ(すみいれ)に似ていることが名前の由来になったという説もあります。



シハイスミレ



ヒゴスミレ



ツボスミレ・ニョイスミレ

## 箕面の春

春になると、箕面では可憐な花が咲き乱れ、小鳥たちのさえずりが聞こえてきます。山道を歩く私たちの目を楽しませてくれる花や小鳥たちですが、彼らは何をしているのでしょうか。キビタキやオオルリなどの夏鳥たちが春に飛来し、箕面の山で行うことは、繁殖相手を探し、産卵し、子育てをすることです。植物たちが花を咲かせるのは、次世代に命をつなぐための種子をつけるためです。そんな野鳥や植物たちの営みを支える生き物もあります。それは、たくさんの虫たちです。花の中には、ハチの仲間や甲虫の仲間のような虫たちに受粉を頼っているものも少なくありません。また、育ち盛りの子どものたちの食欲を満たすために、親鳥は必死で虫たちを採ってきては巣に運びます。ハイカーには好まれることが少ない虫たちですが、自然の中で様々な個性をもったたくさんの生き物たちは他の生き物や環境とつながり合いながら、虫たちも生かされているのです。



虫を採餌中のオオルリ



ジャケツイバラを訪れるハナバチ



虫を採餌中のキビタキ



フデリンドウ



ムベ



テングチョウの幼虫



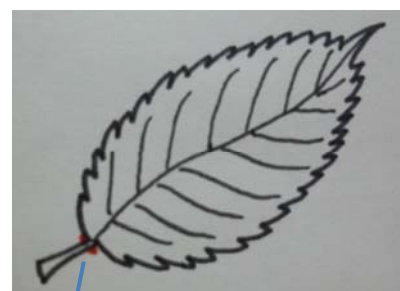
テングチョウの成虫

越冬したテングチョウの成虫はエノキに産卵し、幼虫は盛んに葉を食べて、6月ごろになると一斉に新成虫が出てきます。

\* 昭和の初め頃「箕面はテングチョウの数の多いこと日本一」と言われ、箕面の名物のような人気だったそうです。

## サクラのひみつ

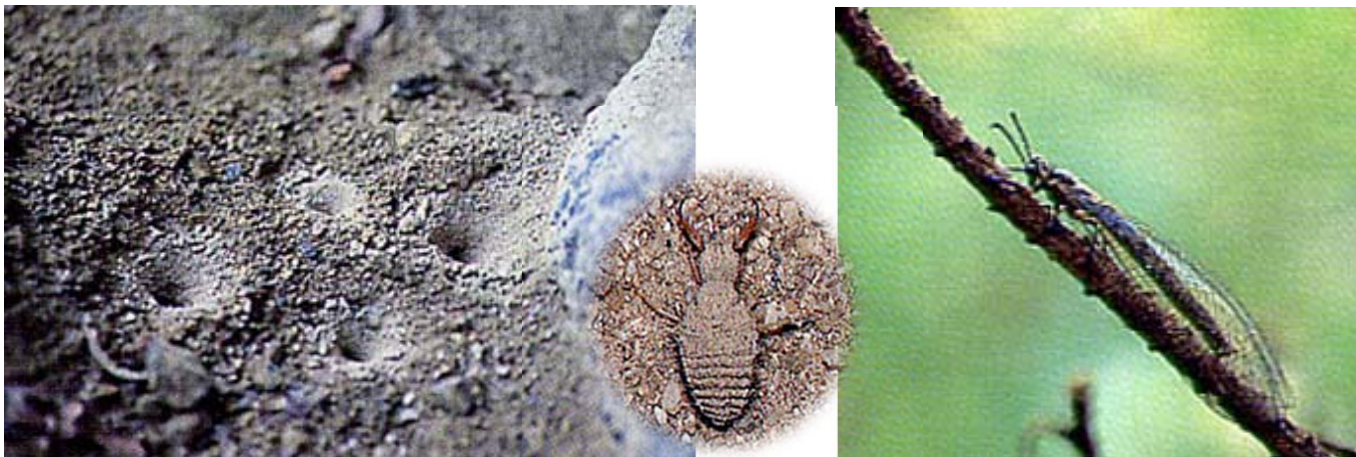
一斉に咲いたサクラの多くは、春の半ばを迎えるまでに散ってしまいます。花が散ると、開葉した葉が目立ってきます。サクラの仲間は、葉に蜜を出す器官をもっています。これは、花外蜜腺と呼ばれるもので、蜜を分泌します。蜜を出すことでアリを呼び、葉を食べる虫を排除してもらおうという植物側の戦略です。特に、開葉直後のやわらかい葉は、虫たちに狙われやすいのです。花が散ってしまった後のサクラを、じっくりと観察することはなかったかもしれませんが、一度葉の付け根に注目してみてもいかがでしょうか。



蜜腺

## ウスバカゲロウの幼虫 “アリジゴク”

箕面ビジターセンターの展示室や事務所のまわりを探してみると、ウスバカゲロウの幼虫の巣があります。雨のかかりにくい、さらさらした砂地のところに、すり鉢状の巣をつくっています。ここにアリなどの小さな虫が入ってくると、砂をかけて巣の中央部に落とし込み、体液を吸います。穴に落ちたアリは、必死ではい上がろうとしますが、小さな穴でも抜け出すことはできません。



“アリジゴク”と呼ばれるウスバカゲロウの巣と幼虫

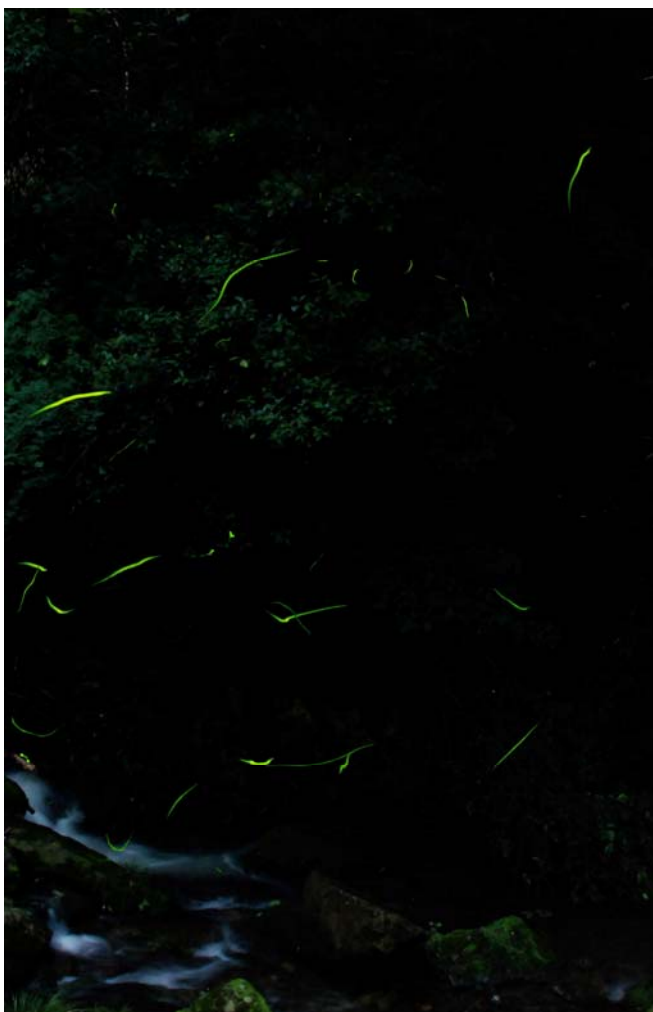
ウスバカゲロウの成虫

写真: 箕面公園昆虫館

## ホタルの舞う風景

ホタルといえば多くの方が思い浮かべるのは、ゲンジボタルではないでしょうか。光が大きく、優雅に飛ぶ姿は初夏の風物詩として親まれてきました。日本には40種類以上のホタルの仲間が生息しますが、ゲンジボタルのように、成虫が夜行性で発光がよく観察できる種は限られています。また、幼虫期を水中で過ごす種も少数派です。滝道では、4月の暖かい雨の夜、水中で幼虫期を過ごしたゲンジボタルが、土の中で蛹になるために上陸します。蛹の期間は30日程度なので、成虫が見られるのは、5月下旬ごろからです。

昨年は、滝道上流部で、例年にないほどの多くのゲンジボタルが見られましたが、今年はどうでしょうか？



ゲンジボタルの成虫



上陸中の幼虫



### ゲンジボタルの生息環境

幼虫期を過ごすさらさら流れるきれいな河川、蛹になるためのコンクリートで固められていない河岸の草地、発光をさまたげる人口の光がない 暗い場所など、ゲンジボタルが生息するためには、豊かな自然環境が必要です。

写真: 原條 義春 石田 達郎

森の自然工作教室

毎月 第2日曜は「自然工作」の日!

4月12日(日) 5月10日(日) 6月14日(日) 12:30~15:00ごろ

箕面ビジターセンターの講義室で、小さな木の実などの自然素材を使って楽しく自然工作をしよう!



- ☆雨天決行(警報発表時は中止)
- ☆箕面ビジターセンター集合
- ☆参加費:100円 子ども無料
- ☆申込:当日受付、先着30名
- ☆協力:一休さんの自然工作教室

箕面川ダム周遊 自然観察ツアー

4月18日(土) 5月9日(土) 12:30~15:00ごろ

新緑が美しい箕面川ダムの周りをゆっくり歩きながら野鳥や春の植物などを楽しく観察しよう!



- ☆少雨決行(警報発表時は中止)
- ☆箕面ビジターセンター集合
- ☆参加費:100円 子ども無料
- ☆申込:当日受付、先着15名
- ☆協力:箕面VC自然解説友の会

自然研究路の樹木観察ツアー

自然解説員の中瀬重幸さんと自然研究路を歩きながら周辺の樹木などを観察したり樹木の名札をつけます。



- 5月16日(土)  
12:30~15:00ごろ
- ☆箕面ビジターセンター集合
  - ☆参加費:100円 ☆少雨決行
  - ☆申込:当日受付、先着15名
  - ☆協力:箕面VC自然解説友の会

アリジゴクの不思議発見

箕面ビジターセンター展示室の近くで、アリジゴクの巣を探したり、アリジゴクの生態の不思議を観察します。

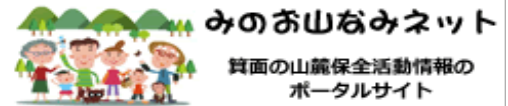


- 6月6日(土)  
12:30~15:00ごろ
- ☆箕面ビジターセンター集合
  - ☆参加費:100円 ☆少雨決行
  - ☆申込:当日受付、先着15名
  - ☆協力:箕面VC自然解説友の会

箕面の山の情報は みのお山なみネットで!

箕面の山のイベントや安心・安全の情報などを随時更新しています。みのお山なみネットをご覧ください。

ホームページ <http://www.yama-nami.net> (検索:山なみネット)



箕面ビジターセンター (政ノ茶屋園地)

住所:〒562-0001 箕面市箕面1576 Tel/Fax:072(723)0649

休館日:火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

時間:10時から16時まで(4月から11月の土日祝は9時30分から17時迄)

※施設や駐車場は利用できませんが、入園は可能

【マイカーご利用の方】新御堂筋国道423号を北上し、白島交差点を左折 箕面浄水場を右折し、府道豊中亀岡線を北上(約5km)

【電車ご利用の方】

- (1) 阪急箕面線「箕面駅」下車、箕面大滝を經由して徒歩約90分
  - (2) 阪急バス「千里中央駅」乗車、「勝尾寺」下車徒歩約30~40分
- 「千里中央④停留所」発車予定時刻

(粟生団地経由、勝尾寺、北摂霊園方面行) \* 午前の時刻表を表示

平日 9:10、11:15 土曜 9:00、10:05、11:10

日祝 9:00、9:55、10:55 \* 時刻表は変更の可能性があります。

「勝尾寺停留所」発車予定時刻 阪急バスにご確認ください。

(千里中央方面行) \* 午後の時刻表を表示

平日 13:28、16:31、17:20 土曜 12:18、13:38、14:21、15:23、16:48、17:20

日祝 12:31、13:38、14:26、15:23、16:48



編集後記: 新緑が美しい季節です。自然とふれあいながら、ゆっくり箕面の山を歩きましょう! 箕面ビジターセンターの展示室では季節の自然情報を紹介しています。ぜひ展示室にもお立ち寄りください! NPO法人みのお山麓保全委員会 Tel/Fax:072(724)3615 Eメール:yama-nami@yama-nami.net

Meiji-no-mori Minoh Quasi-National Park



大阪府北部農と緑の総合事務所  
〒567-0034 茨木市中穂積一丁目3番43号(大阪府三島府民センタービル内)  
TEL 072(627)1121(代表) / ファックス 072(623)4321  
ホームページ <http://www.pref.osaka.jp/hokubunm/youkoso/index.html>